

はじめに

大阪府の識字・日本語学習活動においては、在留外国人の増加や深刻な経済不況
おおさかふ しきじ にほんごがくしゅうかつどう ざいりゅうがいこくじん ぞうか しんこく けいざいふきょう

等により、日本語の習得が十分でなく、社会参加ができずに困っている外国人等の
とう にほんご しゅうとく じゅうぶん しゃかいさんか こま がいこくじんと

生活を支えることが大きな課題になっています。

そこで、大阪府ではこの課題に対応するため、今年度から、市町村および識字・
おおさかふ かだい たいおう こんねんど しちょうそん しきじ

日本語研究会と連携しながら『日本語学習活動』活性化支援事業を実施しています。
にほんごけんきゅうかい れんけい にほんごがくしゅうかつどう かつせいかしえんじぎょう じっし

本事業では、日本語学習活動についての広報・啓発や学習支援人材の養成、
ほんじぎょう にほんごがくしゅうかつどう こうほう けいはつ がくしゅうしえんじんざい ようせい

学習者や学習支援者等のネットワークづくりのための府内全体交流会やブロック
がくしゅうしゃ がくしゅうしえんしゃとう ふないぜんたいこうりゅうかい

別交流会の実施、日本語学習に関する情報の発信、学習教材の作成等に取り組ん
べつこうりゅうかい じっし にほんごがくしゅう かん じょうほう はっしん がくしゅうきょうざい さくせいとう と く

でいます。

本教材「あいう絵おしゃべり」は、教室で学習支援者と学習者が楽しくおしゃべ
ほんきょうざい え きょうしつ がくしゅうしえんしゃ がくしゅうしゃ たの

りをする中で日本語を習得していくことを意図し、双方がおしゃべりを通じて相互
なか にほんご しゅうとく い と そうほう つう そうご

理解を深め、共に暮らし、共に生きていくことのできる地域づくりにつながること
りかい ふか とも く とも い ちいき

をねらいとしています。

また学習者は日本語があまり話せない人を対象とし、絵やイラストを多用した形
がくしゅうしゃ にほんご はな ひと たいしゅう え たよう かたち

で構成しています。

この教材を府内の識字・日本語教室関係者をはじめとする多くの方々にご利用
きょうざい ふない しきじ にほんごきょうしつかんけいしゃ おお かたがた りょう

いただき、学習者とともに学びが深まっていくことを期待しています。
がくしゅうしゃ まな ふか きたい

平成 23 年 3 月
へいせい ねん がつ

大阪府教育委員会事務局
おおさかふきょういっかいじんかいじむきょく

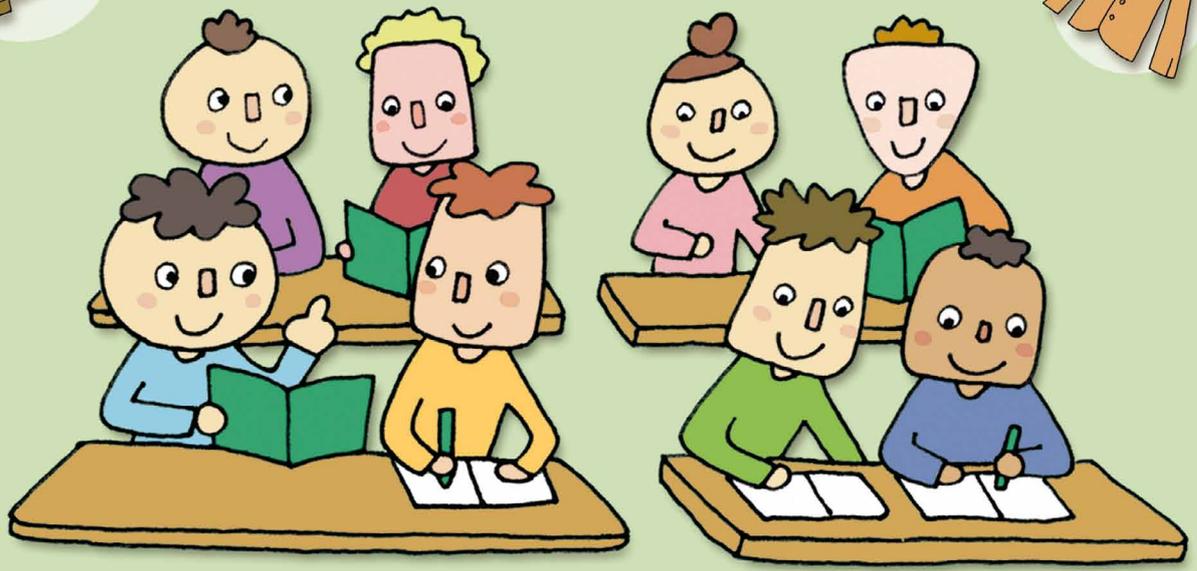
市町村教育室地域教育振興課
しちょうそんきょういっくつちいききょういっくしんこうか

課長 太田 浩二
かちょう おおた こうじ

あ い う え 絵



おしゃべり



本書の使い方

☆本書の趣旨

まず、この教材は「どこで」「どんな人が」「どんな人と」使う教材かというと、

どこで

『地域のボランティア教室で』

どんな人が

『ほとんど日本語を話せない人が』

どんな人と

『その人との共通言語を持たない日本語を話せる人(パートナー)と』

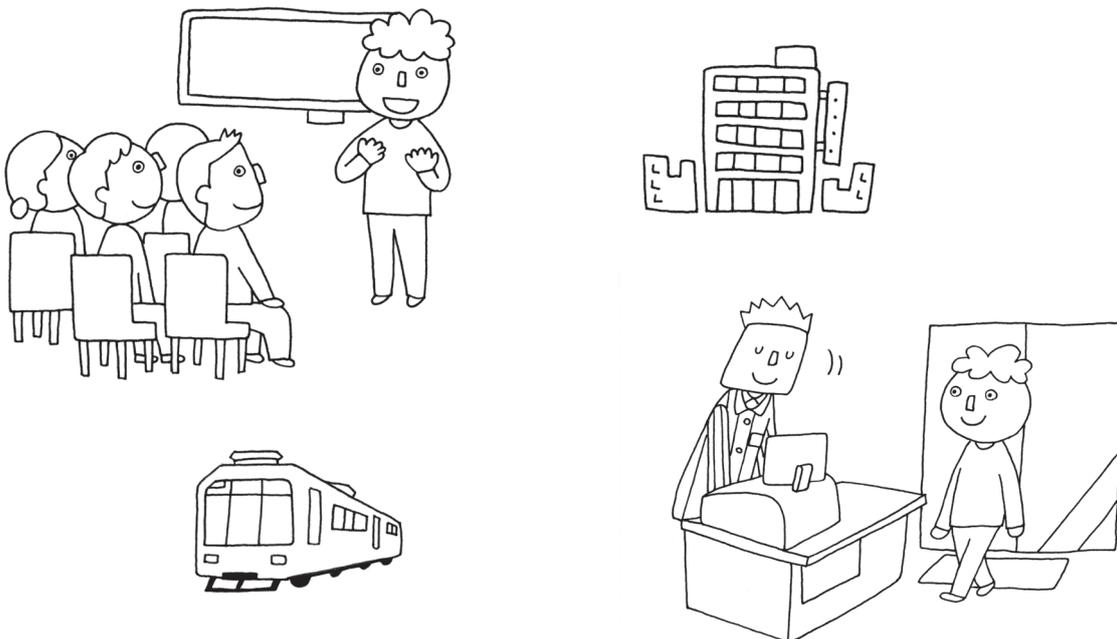
日本語を学ぶ時に使う教材として作成しました。

絵(イラスト)が中心です。

絵を見て、日本語のことばを練習し、会話を楽しんでください。

ボランティアの経験が浅い方でも使える教材として作っています。

テキストにある絵だけでは充分でないことも多いかもしれません。むしろ学習している場所にあるものや、学習している人の持ち物、身につけているものなどの実物のほうがわかりやすい“教材”です。お店のチラシや新聞や雑誌の切り抜きなど何でも教材にしてしまう“教材化力”^{きょうざいかりよく}を発揮しましょう。既存の教材のように、それだけで学習するイメージではなく、1つのヒントとしてこの教材から様々なアイデアが生まれ、各支援者の方々の創意工夫がなされていくきっかけになればと思っています。



.....

☆本書の特徴

.....

この教材は、こちらから完成したものを一方的に提供するのではなく、実際に使用されたみなさんと双方向で、これからも一緒に作っていく教材です。

識字・日本語研究会のホームページに掲載されています。みなさんから色々な使い方や改良点の提案をしていただいて、更新し、もっといい教材に育てたいと考えています。

現在、「あいさつ」「数字」「交通手段」「買い物」「食文化」のテーマがありますが、順番は**どこからはじめても構いません**。また、みなさんで次のテーマを増やしていけたらいいと思っています。例えば、「銀行の手続き」「ゴミを捨てる」「病院に行く」「店で注文をする」「友だちの家に遊びに行く」「友だちが家に遊びに来る」「携帯電話を買う」「外国人登録をする」など生活の様々な場面で必要な会話や情報を取り上げていけたらいいのではないのでしょうか。

共通言語がなく、まったく日本語がわからない人と学習するのは大変かもしれませんが、あえてローマ字表記をしていません。それは、例えばスペイン語圏の方々にとっては「J」の発音が日本語の八行になってしまうなどの弊害があることや、少数かもしれませんがローマ字が読めない人もいることなどが理由です。

また、**日本語教育の文型にとらわれずに、生活に必要なことばを学びます**。会話がはずんでこそ楽しく充実した学習時間となると考え、より多くの話題が広がり、決まった文章を読むだけの学習にならないように考えました。

.....

☆識字・日本語教室と本書について

.....

地域の識字・日本語教室は、ほとんどが週に1回、約1時間半～2時間程度の学習時間です。しかも毎回休まずに来ることができる人ばかりではありません。

また、1対1で学習しているケースがもっとも多いです。学校での勉強のように教科書に沿って1人の先生が数十人の生徒に教えるのとは違ってきます。

地域の識字・日本語教室は、同じ地域に暮らす者として対等に接し、必要な学習支援をしながら交流しています。

生活に関する情報交換をし、感じたことや考えたこと、お互いの文化や習慣の違いなどについても日本語で話し合える場です。

そこで使われる教材は、学校用のテキストとは違う地域の識字・日本語教室にあったものが必要とされ、様々なところで教材作成や工夫がされています。

ある時、地域の教室にまったく日本語を話せない外国人のかたが訪ねてこられ、日本語学習を希望されたけれども、その方の母語を話せるボランティアがいなかったので断ったという話を聞きました。やっとの思いで教室を見つけ、訪ねてきた人の気持ちを考えると、なんとか工夫をして一緒に学習できないものかと思いませんか？

簡単なことではないかもしれませんが、この教材で1人でも多くの方が教室で楽しく学べるように、実際に教室でボランティアをしている人や学習者の人が意見を出し合って作りました。そしてみんなでどんどん作り変えていけたら嬉しいです。

☆本書の構成と使用例

この教材には<学習者のページ>と<支援者のページ>があります。
それぞれのテーマにそって<学習者のページ>のすぐ後に<支援者のページ>があり、交互にできます。

<支援者のページ>には、<学習者のページ>が縮小されていて、どのように話をすすめていけばいいかなどの提案や、注意して欲しいことなどが書かれています。

まず、学習者に合わせて、どんな学習をするかが決まったら、**学習を始める前に、必要なページ**(1ページのサイズはB 5、左右見開きでB 4サイズ)をコピーしましょう。B 4サイズをA 3に拡大コピーしたほうが、見やすく使いやすいかもしれません。

<学習者のページ>をコピーしたら、そのあとに続く同じ学習内容の<支援者のページ>もコピーしてください。左上に<学習者のページ>を縮小した絵がありますね。

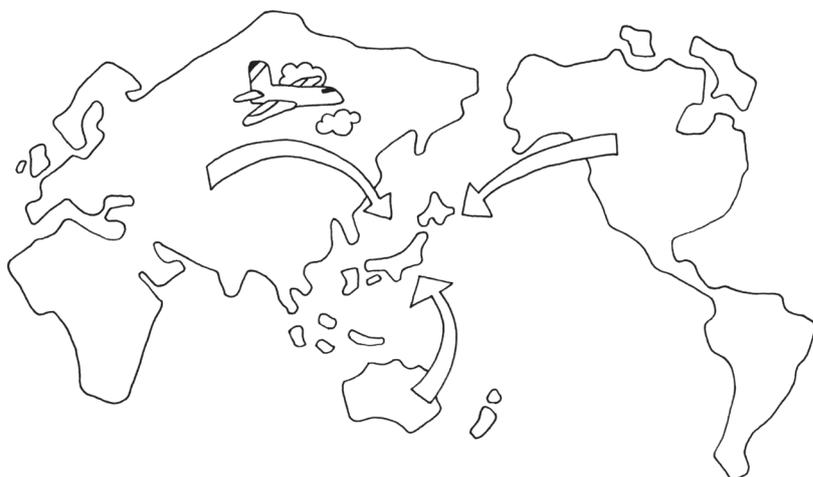
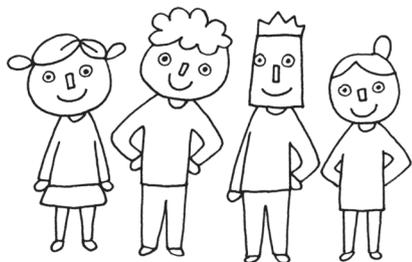
学習者には<学習者のページ>だけを渡して学習してください。

<支援者のページ>に、吹き出しを使って書いてある色々な提案や注意書きを参考にしながら会話をひろげましょう。

文字を学ぶことを前提にした教材ではありませんが、他のテキストを使って学習できるようになっていくためには、ひらがなが読めるようになる必要があるかもしれませんので、付録としてひらがなとカタカナの表を55～56ページに載せました。

また、5～6ページには、どうしても日本語だけで学習ができない人向けに、イラストで表すのが難しいことばを、大阪府下の教室で最も多かった学習者の母語(中国語、韓国語、ベトナム語、英語、タイ語)で書いた“ことばのページ”をつけています。必要があれば活用ください。

では、どのページからでも始めてみましょう!!





もくじ

本書の使い方 2

1. あいさつ 7

2. 数字 15

3. 交通手段 33

4. 買い物 37

5. 食文化 47

付録：ことばのページ 5

かぞえかた(助数詞表) 27

五十音表(ひらがな・カタカナ) 55

世界地図 57